

京なじみ (MGX-191)

サラダに最適な美しい壬生菜！

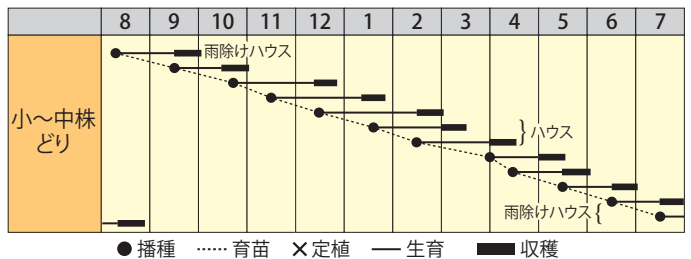
特性

- ① 草姿は半立性で、葉軸は極細で純白、葉は淡緑色の細葉となり、荷姿の美しい壬生菜です。
- ② 分けつは旺盛で株張り・株揃いがよく、小～中株どりに最適な早生種です。
- ③ 特に肉質やわらかで、苦味が少なく軸の繊維質も少なくピリッとした辛味と風味が特長で漬物の他煮物、おひたし、サラダ料理に最適です。



栽培のポイント！

- ① 小～中株どりの場合、元肥主力で栽培時期や期間に応じて施肥量を加減して下さい。
- ② 年間5～6作の連作となりますので、有機質の投入による土作りを心がけ、連作障害を回避します。



栽培管理

① 圃場の準備

肥料は元肥を中心にし、三要素各10kg/10aを基準とし、夏期は各6～8kg/10a、冬季には各12～13kg/10aを目安とします。立枯病など土壌病害予防のため、定期的に土壌消毒を行うことが望ましいです。

② 播種・育苗

うね幅120～150cmで条間8～10cmを基準とします。播種はシートテープを用いて直播きします。株間は7cm間隔で1粒まきし、間引きしません。播種後十分に灌水し、寒冷紗で被覆して一斉に発芽させます。

③ 収穫までの管理

早春のハウス栽培では抽苔しやすくなります。特に生育初期の低温は、花芽分化を促進させますので注意が必要です。春・秋の暖かい日はハウス内の換気を充分に行い軟弱徒長を防ぎます。

④ 収穫・出荷

草丈28cm位になれば順次収穫します。収穫後は急速に品質が低下しますので、速やかに子葉・枯葉・根部を除去し、調整・袋詰めを行います。この時できるだけ水洗いはしないようにします。

⑤ 病害虫防除

壬生菜は茎葉部を食しますので、病害虫防除は生育初期の予防的散布を基本とします。小～中株獲りの害虫防除には被覆資材を用いて薬散回数を少なくします。

主な病害虫

● ベト病、白斑病、白さび病、軟腐病、立枯病 ● コナガ、カブラハバチ、キスジノミハムシ、ヨトウムシ、アブラムシ